

令和5年度第1回 横浜健康経営認証委員会 会議録	
日 時	令和6年1月24日（水）午後1時00分～午後3時00分
開催場所	市庁舎18階 共用会議室 みなと5
出席者	<p>横浜健康経営認証委員会委員</p> <p><出席>7名</p> <p>大野 多賀子 氏（株式会社 日本政策投資銀行 サステナブルソリューション部 調査役）</p> <p>小副川 忠明 氏（横浜商工会議所 中小企業相談部 経営支援課 課長）</p> <p>北田 昇平 氏（花王株式会社 人材開発部門 健康開発推進部 全社産業医）</p> <p>斎藤 照代 氏（国際医療福祉大学 小田原保健医療学部 看護学科 教授）</p> <p>佐久間 更生 氏（全国健康保険協会神奈川支部 企画総務部 保健グループ長）</p> <p>西尾 泉 氏（独立行政法人 労働者健康安全機構 神奈川産業保健総合支援センター産業保健専門職）</p> <p>畠山 亜紀子 氏（公益財団法人 横浜企業経営支援財団 経営支援部 経営支援課長）</p>
開催形態	公開 2 審査については非公開（傍聴人0名）
議事	<ol style="list-style-type: none"> 1 横浜健康経営認証制度について 2 審査 <ol style="list-style-type: none"> (1) 認証区分決定の流れ及び審査基準について (2) 審査 3 令和6年度横浜健康経営認証に係る見直しの方向性について
議事概要	<ol style="list-style-type: none"> 1 横浜健康経営認証制度について 横浜健康経営認証制度の概要及び今後のスケジュールについて事務局より説明した。 2 審査 横浜経営認証委員会（部会）設置要綱第7条に基づき、審査に係る議事については、非公開とした。 事務局から応募事業所について説明を行い、各委員による議論により認証区分を審査した。 3 令和6年度横浜健康経営認証に係る見直しの方向性について 令和6年度以降の横浜健康経営認証に係る見直しの方向性について事務局より説明し、了承を得た。

資料	<p>資料1 「横浜健康経営認証」事業実施要綱</p> <p>資料2 健康横浜21推進会議運営要綱</p> <p>資料3 横浜健康経営認証委員会（部会）設置要綱</p> <p>資料4 令和5年度横浜健康経営認証委員会委員名簿</p> <p>資料5 横浜健康経営認証制度について</p> <p>資料11 令和6年度横浜健康経営認証に係る見直しの方向性について</p> <p>資料12 横浜グランドスラム企業表彰79社を表彰します（横浜市記者発表資料）</p> <p><以下は、非公開とした審査に係る資料></p> <p>資料6 横浜健康経営認証2024概要</p> <p>資料7 認証区分決定の流れ</p> <p>資料8 横浜健康経営認証 認証基準</p> <p>資料9 横浜健康経営認証制度応募用紙・募集要項・募集案内チラシ</p> <p>資料10 審査資料</p>
主な意見	<p><議事3 令和6年度横浜健康経営認証に係る見直しの方向性について></p> <p>></p> <p>（事務局）</p> <p>令和6年度横浜健康経営認証に係る見直しの方向性について説明。</p> <p>→（斎藤委員長）</p> <p>先ほどの議論にもあったが、新たに国で示された「女性の健康づくり応援」「腰痛予防」「骨折・転倒予防」について取り入れられているので良いと思う。</p> <p>→（大野委員）</p> <p>国の動きや横浜市が目指している姿がきちんと反映されるものであると良いと思う。</p> <p>「腰痛」「骨折・転倒」という言葉は分かりやすさもあるが、「ロコモティブシンドローム」など国が示している言葉を活用するのも事業所が健康づくりに関心をもつきっかけになると思う。</p> <p>また、まだ実施していない項目の取組に目を向けることが、自社の取組の高度化につながっていくことを理解してもらうのも重要。</p> <p>グランドスラム企業表彰の創設に伴い、認証期間を4年に延長するということだが、一度認証を取得した企業は4年間何も確認しない期間が続くのか。</p> <p>→（事務局）</p>

グラントスラムの各制度によって異なるが、他制度の中には期間中に振り返りの提出を求める制度もある。

横浜健康経営認証では、応募事業所数が多いこともあり中間報告を求めると事務負担の軽減にはつながらないため、中間報告を求めることはしないが、年に複数回、健康づくりの講師派遣の御案内や募集開始の案内などでメールを送付して働きかけを行っていくので4年間放置ということではない。

→ (大野委員)

応募用紙のなかで、取組を継続しているというチェック項目を設けることで横浜市としても安心材料になるのではないかと思った。

→ (佐久間委員)

今回はじめてこの委員会に参加したが、非常に多くの応募書類を事務局で確認していることに驚いたのと同時に、簡略化は必須だと感じた。

認証期間については、もう少し長くしても良いと感じた。国の計画の中には計画期間が6年のものも多くある。ただ、期間を延ばしたとしても、期間中に何の働きかけもないのは制度の質の低下につながるため、何かしらの振り返りは必要だと思う。今回は、4年にするという事なので4年で問題ない。

→ (斎藤委員長)

横浜健康経営認証はとても素晴らしく発展を遂げているので、今後もこの発展が続くよう、またより効果的な取組が実施されるように事業を進めていただきたいと思います。